

売れる米づくり技術情報 (No. 1)

～ なんかん米 光る粒張り 粒ぞろい ～

平成22年3月26日
JAにいがた南蒲
三条・長岡農業普及指導センター

品質向上対策3本柱！

- ①適正籾数確保 (小できな稲づくり)
- ②後期栄養・水の確保 (粒張りの良い米づくり)
- ③土づくり (気象変動に強い稲づくり)

1等米比率目標：95%以上！ 継続しなければ、評価されない!!
気象変動に負けない稲づくりは、基本技術の確実な実践です。

☆4月上旬の播種では気象災害の危険が高い

・播種後の低温による育苗障害 ・出穂が早まり、高温下での登熟により品質が低下

コシヒカリ
高温登熟回避作業

4月7日頃塩水選 ⇒ 4月7日頃浸種 ⇒ 4月18日頃消毒・芽出し ⇒
4月20日播種 ⇒ 5月10日頃田植 ⇒ 8月5日頃出穂 ⇒ **品質向上!!**

1. 床土・覆土の準備 【稚苗一箱当たりの準備例】

床土	床土量	稚苗苗代配合	覆土	覆土量	ダコニール粉剤	カスミン粒剤 (細菌性病害対策)
	3リットル	25～30g		1リットル	8g	20g

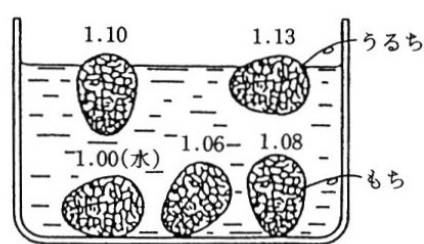
細菌性病害対策として、上表のカスミン粒剤の代わりに、カスミン液剤4倍液50mlを、は種後覆土前に散布してもよい。

※本田での殺菌剤散布と3割減栽培等の観点および病害の発生が少ないことから、**床土のタチガレン粉剤は削除しました。**

2. 種籾の準備から苗管理まで (作業日めやすは稚苗加温で5月10日田植えの場合)

平成21年産種子は休眠は浅いと予想されています。もちなど発芽しやすい品種では、浸種中の水温と芽の動きをこまめに観察しましょう。

塩水の濃度と生たまごの状態



塩水選
めやす 4/7～
水洗い・水切り

充実した種もみを選び、発芽率を高めます。

	比重	水10リットルに溶かす食塩の量
うるち	1.13	1.9kg
もち	1.08	1.1kg

*比重計のない時は右図のように新鮮な生卵を使いましょう。

浸種
めやす 4/7～

発芽をそろえるために、種もみに水を十分に吸わせます。

水温	浸種期間	要 点
10～15℃	積算温度で100℃	・2～3日で1回水を入れ替える ・ときどき種もみの上下を交換する

種子消毒

薬剤名
エコホープDJ
めやす
4/15～
(浸種後期)

もしくは

4/18～
(催芽時)

ほか苗病、もみ枯細菌病、いもち病、苗立枯細菌病、褐条病を予防します。

消毒方法	注 意 事 項
<p>方法は二つ！</p> <p>●浸種期間最後の1～2日間、水換えとともに、エコホープDJ200倍液に籾を漬けて(24～48時間浸漬)、直ちに催芽を行う。浸種液が凍るなど、極端な低温は避ける。</p> <p>○薬液温度：10℃以下、30℃以上は避ける。</p> <p>もしくは、</p> <p>●催芽機内の循環水の水温調整をした後に籾を投入(エコホープDJ200倍液中で催芽)。催芽温度は30℃程度(25℃以下、32℃以上は避ける…24時間浸漬)。</p>	<p>○生菌微生物農薬なので、化学農薬を使用した種籾とは一緒に水漬けしない。</p> <p>○薬液の反復使用はしない。</p> <p>○薬液は放置せず、24時間以内に使用する。</p> <p>出芽</p> <p>○無加温出芽の場合、温度条件が気象に左右されやすく障害を受けやすいため、加温育苗がよい。</p> <p>○プール育苗の場合の入水や他の薬剤の使用は緑化期以降とする。</p> <p>催芽後の籾の乾燥は陰干しとし、過度の乾燥は避け、保存せず速やかに種まきをする。</p> <p>播種</p> <p>○人工粒状培土を用い、育苗シートは水はけを悪くするので使わない。</p> <p>○ペノミル剤(ペンレートやダコレートの商品名がついた剤)の使用は菌が死滅するため行わない。</p>

芽出し
めやす 4/18～

加温により発芽をそろえます。

温度	注意事項
30℃	・ハト胸状態まで行います。(発芽がそろったら終了) ・催芽時の高温は細菌性病害の発病を助長するので注意する ・ハト胸催芽機へのカスミン液剤の加用は厳禁(耐性菌の発生を助長する恐れがある)

は種 めやす 4/20～ 健苗育成のために薄まきしましょう。
稚苗の場合：一箱当たりのは種量(g) 乾もみ130～140

10a当たり必要箱数のめやす

コシヒカリ 15～16箱(50株植え)
こしいぶき 17～18箱(60株植え)



140gイメージ

「農薬登録状況確認日：平成22年3月3日」

出芽期 以降の技術対策等については、次号 (No. 2) で、
ご確認をお願い致します。

BL 情報

コシヒカリ BL は、いもち病の抵抗性が異なる数種類の品種を混合して栽培するもので、いもち病の発病抑制効果を安定して維持するために数年サイクルで品種の構成を変えています。

平成22年 コシヒカリ BL 1号：2号：3号：10号 = 1：2：3.5：3.5
 ※BL3号の特性は、倒伏程度、品質、食味は従来コシヒカリと同等

JAからの情報発信

☆携帯電話に！

メール機能がついている携帯電話なら登録をすることにより、緊急情報などが携帯電話を通してあなたのお手元に届けられます。

- 下のバーコードを読み取らせるか、アドレス(<http://ktai.at/ja-nankan/>)を直接入力して、「JA にいがた南蒲携帯サイト」に接続後、「マガジン登録」を選択。「そのまま送信」を選択して、メール画面になったらメール送信。
- 送信後、返信メールが届きます。「ユーザー登録」の受信メールを確認し、受信メールの本文中から登録画面に接続します。
- 郵便番号を入力して、「送信」を選択。引き続き、必要項目(氏名のみでも可)を入力して「確認」を選択。内容確認後「登録」を選択して、完了。



←カメラモードなどのバーコードリーダーで読み取り

もしくは、インターネット画面から直接入力

<http://ktai.at/ja-nankan/>

☆情報紙として！

発行NO	発行予定	テ ー マ
2	4月上旬	育苗後半の管理、移植(5/10植え)
3	5月下旬	中干し・溝切りの確実実施、カメムシ対策
4	7月上旬	出穂予想、早生1回目穂肥、草刈り
5	7月中旬	コシヒカリ出穂期予想、早生2回目穂肥
6	7月下旬	水管理(飽水管理)、基幹防除
7	8月中旬	出穂状況と収穫期予想と水管理対策、乾燥調製等

※上記日程は、予定であり発行日等が移動することもありますので、ご了承のほどをお願いいたします。
 また、緊急時には号外等により情報を提供してまいります。

☆展示実証ほとして！

各地域にて、H23 コシヒカリBLやコシヒカリ元肥施用などの実証ほを設置いたします。
 ぜひご覧いただき、稲姿等ご確認ください。